



企画展

【しんぶんし】

原紙にみる彦根高商報道

第I期展示

〈1928年4月～1929年12月発行分〉

ごあいさつ

滋賀大学経済学部の母体となった彦根高等商業学校(彦根高商。1923年～1944年)では、研究や教育に活用するため、同時代の新聞を収集していました。それらのなかには『大阪朝日新聞』や『大阪毎日新聞』などがあり、現在、滋賀大学経済経営研究所で保管されています。

『大阪朝日新聞』と『大阪毎日新聞』には滋賀についての情報をあつめた紙面があり、1928年～1937年の原紙については、滋賀県にある公立図書館での所蔵はなく、本研究所にのみ保管されています。

そこで今回、滋賀県内ではあまりみることができない、新聞原紙に掲載された彦根高商をめぐる記事を3期にわけて展示します。

おおよそ80～90年前の滋賀の人々が読んだ新聞原紙をとおして、彦根高商の様子をみてみましょう。

2017年8月

※彦根高商卒業アルバムの写真はすべて滋賀大学経済経営研究所デジタルアーカイブです。

〔表紙写真〕大阪朝日新聞 一九三七年五月八日

二〇一七年八月一日 発行

The Institute for Economic and Business Research  
http://www.biwako.s-higa-u.ac.jp/oml/index.htm



〒522-8522  
滋賀県彦根市馬場一丁目1-1  
電話：0749(27)1047  
FAX：0749(27)1397

発行 監修・編集  
滋賀大学経済経営研究所  
今井綾乃(滋賀大学大学院経済学研究科博士後期課程)

会期  
◎第I期  
2017年8月1日(火)から10月27日(金)まで  
◎第II期  
2017年11月6日(月)から2018年1月26日(金)まで  
◎第III期  
2018年2月1日(木)から3月30日(金)まで



企画展【しんぶんし】  
原紙にみる彦根高商報道



## 2 「彦根高商の日々と地域の人々」

1928年と1929年の新聞には彦根高商をめぐる記事が複数、掲載されています。ここでは彦根高商と彦根の人々、あるいは彦根高商と滋賀県の人々との関係がわかる記事を展示しました。彦根高商の『卒業アルバム』に掲載された写真等とともにご覧ください。

展示した記事からは、地域の人々が彦根高商を訪問できるよう

な機会や施設が同校から提供されていたことを読みとることができます。また、彦根高商の生徒や教官が地域に出かけ、人々と交流する様子を捉えることもできます。



▲彦根高商卒業アルバム『07-H.C.C.2595』図書閲覧室



▲彦根高商卒業アルバム『03-PRO MEMORIA 1929』図書閲覧室

▶彦根高商卒業アルバム『06-L.A.M.E.M.O.R.I.A 1933』貸出口



### 図書館開放 彦根高商で

彦根高等商業学校の図書館はこれまで官庁、学校、会社、銀行へ特別閲覧券を配布していたが今回これを広く希望者に交付することに改めた

1929年6月26日 大阪朝日新聞 9面

秋晴れのきのう

## 盛大に挙行

### 彦根高商五周年記念式

来賓二百数十名に及ぶ

彦根高商校の開校五周年記念式は秋晴れの一日午前十時大講堂に

荒木京大総長、大阪商科大学長代理小畑幹事、渡邊名古屋高商校長、小松原八高校長、澤田高松高商校長ほか直轄諸学校長、堀田県知事代理大西教育課長、県内有力者および寄付者等

二百数十名の来賓を迎えて盛大に挙行された、式は君が代斉唱に始まり矢野校長の式辞、勝田文相の祝辞、小松原八高校長代読、荒木京大総長ほか来賓の祝辞、卒業生総代大阪多田浅次郎君、在校生総代福田定夫君の祝辞、中橋商工大臣ほか各方面からの祝電朗読あつて「見よ漫々として琵琶の湖、朝生命の色にかがやき」の校歌合唱で式を閉じ別項の如く懸賞論文当選者の授賞式を行い帝大佐々木法学博士、菅野彦根高商教授らの記念講演ありて祝賀宴を催し、午後は来賓のため島めぐりを試みた、なお四日間にわたり  
展覧会、廉売会、音楽会、運動会、映画会、野球大会、同窓会総会、開寮記念祭  
などの祝賀余興で学校を開放し御大典にさきがけて五周年のお祝い気分は彦根城下を陶酔させている

1928年11月2日 大阪毎日新聞 9面

懸賞論文の

### 入選発表

優等に本社金メダルを贈る

彦根高商では今年の暑中休暇に全生徒から「琵琶湖を将来如何に利用さるべきか」「我国における銀行集中の傾向を論ず」の二題の懸賞論文を募集し審査員六名はそれぞれ分担して厳正な審査を進めつつあつたが一日の開校五周年記念式を機会に審査結果を発表し左記入選者に褒賞を授与、なお「琵琶湖を将来如何に利用さるべきか」の優秀賞選者加藤繁君には本社特製の純金メダルを授与した

「琵琶湖を将来如何に利用さるべきか」三年生加藤繁、同右遠浩一「我国における銀行集中の傾向を論ず」三年生奥田謙次  
ちなみに同校では御大典記念事業として職員および全生徒の醸金により論文懸賞の基金をつくり今後毎年論文を募集するという

1928年11月2日 大阪毎日新聞 9面



▲彦根高商卒業アルバム『03-PRO MEMORIA 1929』開校五周年式々場



▲彦根高商卒業アルバム『03-PRO MEMORIA 1929』記念音楽会ノ盛況

## 成人教育

### 今年も彦根高商で開講

文部省では事務に従事し学校教育をうけることのできない人や特に好學の熱心な人のために成人教育講座を催し教育の普及につとめてきたが今年も彦根高商に成人教育講座の開催を委嘱してきたため同校では準備中のところいよいよ第一部は七日から三十日まで(毎週月水金午後六時半〜九時半)八幡町小学校第二部は二十二日から十一月十四日まで(毎週火、木、土午後六時〜九時)長浜町小学校で開催し、聴講資格は男女無制限として同校教授連が左記科目により実生活に必要な講義をするが希望者は前日までに町役場へ申込者を提出すればよいと

1929年10月2日 大阪毎日新聞13面

出解禁問題(太刀川教授) 南米経済事情(田中秀作) △第二部—公民科—(同上)—商業科—現代における金融上の諸問題(江口教授) 外国為替について(篠原教授) 人造絹糸の話(大橋教授)

成人講習 成績良好 彦根高等商業学校で過半数の成人講習の出席 成績は申込希望者百九十四名にして修了証を授與せるもの百六名、八日市の分は申込者百九十一名で修了証を授與せるもの百二十一名にして成績良好であつたと

昭和3年7月8日 大阪朝日新聞 9面

### 彦根成人教育

文部省主催成人講習会は既報の如く二十九日午前八時より彦根高等商業学校において開會し大講堂において受講者五十八名に對し矢野校長一語の挨拶をなした引續き大講堂において講習を聴し矢野校長の商業教育について等があつた

昭和4年7月31日 大阪朝日新聞 9面

# 彦根高商運動会

彦根高商校の陸上運動会は秋晴れの二日午前九時から挙行、生徒のパン食い競争や、うどん食い競争などあって観衆を喜ばせ校内対抗リレーは二年生が優勝また各チーム対抗リレーは左のチームが優勝した(写真はうどん食い競争)

中等校八幡商業(六百メートル一分一四秒)青年団彦根青年団A組(一分一七秒)実業団宇治電近江支店(一分二〇秒)小学校高等科高宮校、尋常科彦根東校

1929年11月4日 大阪毎日新聞 9面



▲彦根高商卒業アルバム『03-PRO MEMORIA 1929』 ウドン喰競争



▲彦根高商卒業アルバム『15-LA MEMORIA HCC 1933』 運動会



▲彦根高商卒業アルバム『05-LA MEMORIA HCC 1931』 家鴨競争

# 高商生が競って飾窓をかざる

七月一日からの彦根の夏物大売出しデーに

彦根高商研究部では七月一日から五日間彦根全町各商店が夏物大売出しデーを開催するのでこれを景気づけるとともに一面では学生を实地指導すべく各商店のショーウィンドを学生に開放してもらい売出しデーを期して学生の独創になる懸賞付店頭裝飾競技会を催すことになったところこれに共鳴してショーウィンドの開放を申込みものが続出し学生たちは大変な意気込みで独創的趣向をこらしている

1928年6月14日 大阪毎日新聞 9面



▲彦根市立図書館提供

彦根全町の人気を沸騰させた  
学生店頭裝飾競技会  
高商研究部主催

彦根高商研究部主催  
七月一日より五日間彦根全町各商店が夏物大売出しデーを開催するのでこれを景気づけるとともに一面では学生を实地指導すべく各商店のショーウィンドを学生に開放してもらい売出しデーを期して学生の独創になる懸賞付店頭裝飾競技会を催すことになったところこれに共鳴してショーウィンドの開放を申込みものが続出し学生たちは大変な意気込みで独創的趣向をこらしている

特選 三年組 北川英典氏  
同 二年組 代表  
同 一年組 代表  
同 男子部 代表  
同 女子部 代表  
同 学生会 代表  
同 体育部 代表  
同 文化部 代表  
同 音楽部 代表  
同 美術部 代表  
同 演劇部 代表  
同 剣道部 代表  
同 柔道部 代表  
同 空手道部 代表  
同 少林寺流 代表  
同 合気道部 代表  
同 剣道部 代表  
同 柔道部 代表  
同 空手道部 代表  
同 少林寺流 代表  
同 合気道部 代表

彦根高商学報第12号▶  
1928年7月25日発行  
経済経営研究所デジタルアーカイブ

# 停学問題を中心に

## 渦まく彦根高商

### 学生会を急に組織して 風紀の刷新を期す

彦根高等商業学校三年生五名が遊里に足を踏み込んだ故を以て先ごろ停学を命ぜられそれぞれ父兄を電報で呼寄せ監督を命じたところから、生徒中にこれが処分に不平を鳴らし学校当局が飲食店その他に偽名までして調査をなし処分せんがために苦肉の策を弄したこと殊に御大典の目出度さを郷里で寿ぎいる父兄達を電報で呼び寄せるなどあまりに苛酷なりといきまぐものあり、寄り寄り会合をなし将来かかる不祥事を再びせざるよう校内に学生会を組織すべく、各学年及び別科より総代委員を挙げ四日学生会の発会式を挙げる予定のところ、都合によって五日に挙げることにした、今回の処分は学校として前例のないことと、その形式に囚われた処置なりとて校外にも非難の声が高く、右につき矢野校長は上京不在中で鈴木首席教授は語る

したのは穏当でなかったかも知れぬがともかく学校としてかかる生徒を出したことは申し訳のないことで涙をふるって処分したわけであるなお父兄側では

青樓遊びなどはもつてのほかであるが将来就職の上にも至大の影響あることであるから厳しく叱って処分だけはしてほしくなかった

と学校側を恨んでいる、処分を受けた生徒の中には家で勘当を受けてこれからどう落行くか流れるままだと捨鉢的な手紙を女に送って来た者もありまた処分を受けていない生徒で同情の余り学校側に密告したとて某学校生徒を脅迫した者もあって五名の停学が静かな湖国の街に意外な波紋を起している

1928年12月5日 大阪朝日新聞 9面

御大典の目出度いときに処分



▲彦根高商卒業アルバム『06-LA MEMORIA 1933』 麻雀



▲彦根高商卒業アルバム『06-LA MEMORIA 1933』 憩い

# 県下巡回の

## 学術講演

### 彦根高商生

彦根高商講演部では社会正義の確立、文化科の民衆化をモットーとする旗印あざやかに県内巡回学術講演会を各地で開催することとなりその第一声を八日午後七時今津小学校であげることに決定した因みに演題と弁士は左の如くで一般来聴を歓迎すると

我国における婦人労働問題(山本治一)産業の合理化運動について(前田久義)地租委譲に対する一考察(長谷川光信)地方中小商業者問題(馬場栄一)詩聖プラウニングの倫理観(片岡教授)支那における日貨排斥運動に対する一考察(高橋直温)法律より見たる正義(西口彦三郎)挨拶(部長木村教授)

1929年6月6日 大阪毎日新聞 9面



▲彦根高商卒業アルバム『04-LA MEMORIA 1930』 全国大学高専学術講演大会

琵琶湖新聞 1873年3月創刊 ●●1875年7月休刊、同年12月廃刊  
 滋賀新聞(木版) 1872年10月創刊 ●●1881年2月休刊のち廃刊  
 淡海新報 1878年4月創刊 ●●1881年廃刊  
 淡海日報 1881年2月創刊 ●●同年5月『江越日報』と改称 ●●?年廃刊  
 江越日報 1881年5月創刊 ●●1882年12月廃刊  
 近江共同新聞 1884年6月創刊 ●●1888年5月廃刊  
 ささ浪新聞 1888年4月創刊 ●●?年廃刊  
 近江新報 1890年2月創刊 ●●?年廃刊  
 京都滋賀新報 1882年8月のち『中外電報』と改称、さらに『日出新聞』と改称  
 湖南日報  
 淡海民報  
 江州商業新報

滋賀日出新聞 1904~05年頃創刊 ●●?年廃刊  
 滋賀日報 1904~05年頃創刊 ●●?年廃刊  
 長等新報 1904~05年頃創刊 ●●?年廃刊  
 近江新報 1889年2月創刊 ●●1939年8月廃刊  
 江州日日新聞 1921年11月創刊 ●●1940年8月新聞統合で『近江  
 日刊大津新聞 ?年創刊 ●●1940年8月新聞統合で『近江  
 滋賀日日通信 ?年創刊 ●●1940年8月新聞統合で『近江  
 滋賀日出新聞 ?年創刊 ●●1940年8月新聞統合で『近江  
 近江日日新聞 ?年創刊 ●●1939年8月廃刊 1940年  
 近江同盟新聞 ?年創刊 ●●1942年8月第2次新聞統 合  
 滋賀新聞 1942年8月『近江日日新聞』  
 京都新聞(滋賀版) 1942年『京都日日新聞』と  
 大阪朝日新聞(滋賀版) 1925年4月『京都滋賀版』 1927年10月『滋賀版』独立 1940年9月より『朝日  
 大阪毎日新聞(滋賀版) 1894年4月『京都滋賀付録』 1930年10月『滋賀版』1940年6月大津支局設  
 中部日本新聞(滋賀版) 1942年9月大津支局設立  
 大阪時事新報 1940年6月大津支局設立

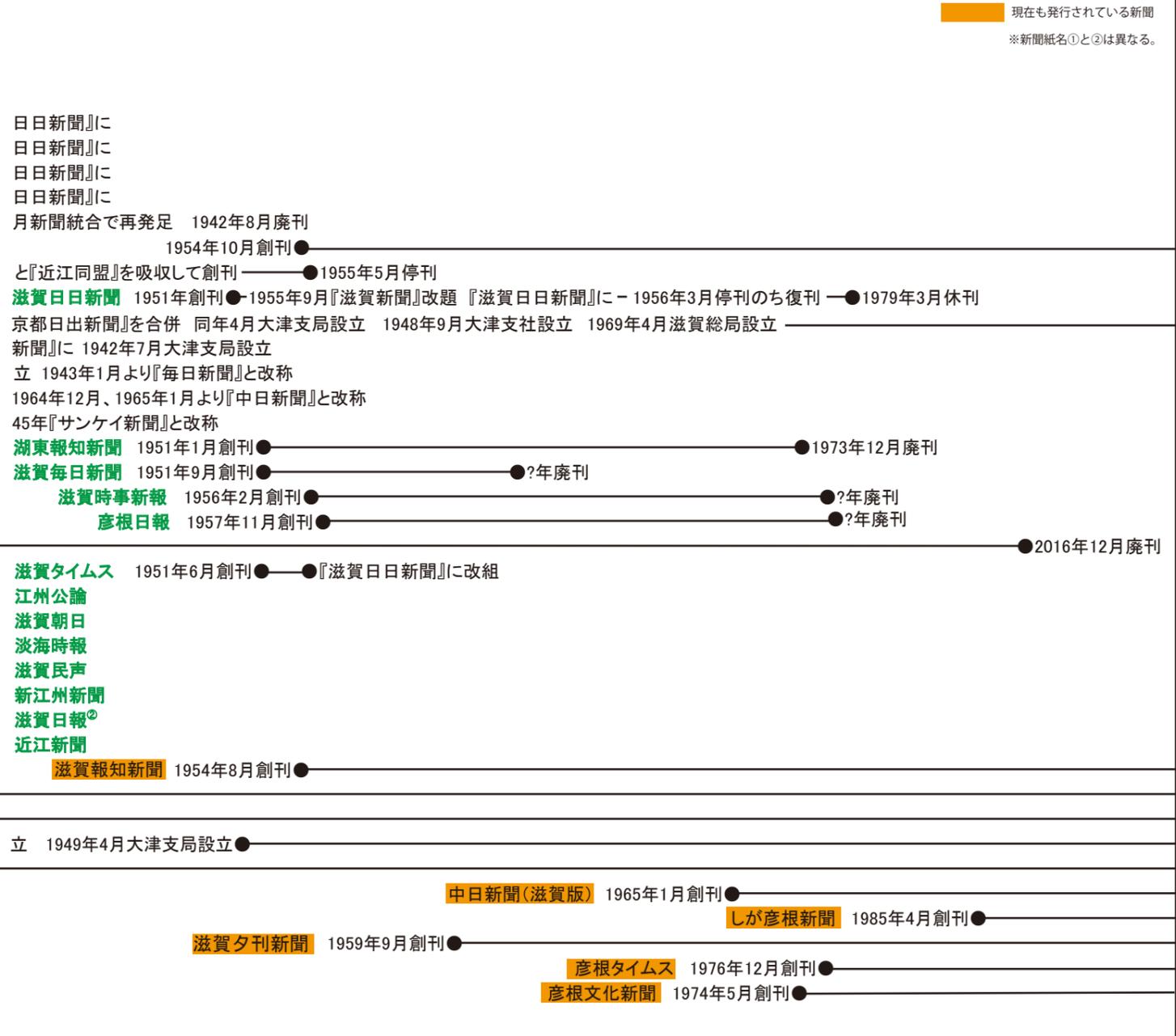
近江毎夕新聞 1929年?月創刊 ●●

### 3 「滋賀の新聞展開図」

ここでは、いままでも滋賀で流通した新聞の歴史を紹介します。しばしば、滋賀は地方新聞が根付かないところといわれています。いくつかの地方新聞が創刊、廃刊、統合されていった様子を「滋賀の新聞展開図」から捉えることができます。

『大阪朝日新聞』には1925年4月から「京都滋賀版」という紙面が、『大阪毎日新聞』には1894年4月から「京都滋賀付録」という紙面

がみられるようになりました。それらは滋賀の出来事にも焦点をあわせ報道する紙面であり、現在、わたしたちのみる「滋賀版」に続いていると考えられます。



1922年彦根高等商業学校創立 1944年4月彦根経済専門学校と改称 1949年5月滋賀大学創立

参考文献 『滋賀県史』昭和編第1巻概説編(1986年8月1日) 滋賀県発行  
 『滋賀県史』昭和編第6巻教育文化編(1985年5月30日) 滋賀県発行  
 『新修大津市史』5近代(1982年7月18日) 大津市役所発行  
 『新修彦根市史』第4巻通史編現代(2015年1月31日) 彦根市発行  
 『彦根市史』下冊(1964年3月30日) 彦根市役所発行  
 『毎日新聞百年史』(1972年2月21日) 毎日新聞社発行  
 『朝日新聞社史』資料編(1995年1月25日) 朝日新聞社 発行  
 『朝日新聞(大阪)マイクロフィルム』大阪朝日新聞京都 付録、京都滋賀版、滋賀版  
 『読売新聞百年史』資料・年表(1976年11月2日) 読売新聞社発行  
 『中日新聞創業百年史』(1987年8月28日) 中日新聞社発行